

ニッポンの伝統工芸に出逢う

JTCW2015



ポスターを持つ鈴木経済産業副大臣（中央右）と安藤代表理事（中央左）とJTCW参加者ら

（一財）伝統的工芸品産業振興協会（東京都港区、安藤重良代表理事）は10月24日～11月3日、「JAPAN TRADITIONAL CRAFTS WEEK2015（JTCW2015）」を東京と名古屋のライフスタイルショップで開催した。後援は経済産業省と（独）中小企業基盤整備機構。

「創り手（各産地）」・「売り手（各販売店）」・「使い手（消費者）」をつなぐイベントで、昨年引き続き2回目の開催。店舗数は東京41、名古屋10と、2.5

倍の規模となった。今回のテーマは「ニッポンの伝統工芸に出逢う。作り手と使い手を繋ぐ」。伝統的工芸品に対する国内

外の消費者・流通関係者への理解の増進、生産者と消費者の交流が目的。消費地である東京・名古屋の各ショップが、それぞれのセンスで選んだ全国の伝統的工芸品を展示販売した。陶磁器関係では、九谷焼とagate青山本店、波佐見焼とLESTOILES、DU SOLEIL、伊万里・有田焼と日比谷花壇日比

谷公園店、常滑焼と東京鳩居堂銀座本店、美濃焼とTHE GIFTS SHOP、駿河竹千筋細工とノリタケ・大倉陶園銀座店、京扇子と陶香堂などのコラボ企画が多彩に展開された。このほか、職人がショップに登場しての製作実演、ワークショップ、スタンプリーマも行われた。

（一財）伝統的工芸品産業振興協会は同イベントに先立ち23日、東京・六本木の東京ミッドタウンで開催レセプションを開

催。冒頭、同協会の安藤重良代表理事は「開催にあたり、各店舗と産地は相互訪問や交流を通じ、今の消費者が求める商品の検討やコラボ商品の開発を行ってきた。このイベントが、伝統的工芸品の新たな流通拡大に繋がることを期待したい」と挨拶。来賓の鈴木淳司経済産業副大臣は「私はやきものの町・愛知県瀬戸市の出身で、伝統的工芸品のファンでもある。伝統的工芸品は『地域の宝』であり、このイベントは時

代にマッチした取り組みだ」と述べた。また、このほど大筋合意にいたったTPP（環太平洋経済連携協定）に関し、「やきものなどの工芸品についても、TPP関係国へ輸出する際の関税障壁が撤廃される見込みで、海外展開にはずみがつくと考えている。伝統的工芸品の魅力を国外に発信する絶好の機会であり、JTCWの成功がその後押しにもなる」と語った。各ショップの詳細は次号でお伝えします。